

文学部を知りたい ののための市大授業

大阪市立大学文学部では、春に引き続いて「高校生のための市大授業」を企画しました。「大学ってどんなところだろう?」「文学部では何を学べるんだろう?」そんな思いのある人は是非いちど市大文学部を見に来てください。大学案内や受験情報だけではわからない「何か」がきっと体感できるはずです。

1限 午後1時00分～午後2時30分

比喩れば、比喩れ!



瀬戸賢一 教授

講義概要

たとえば、いま進路に迷っているとしたら。そのとき、君はすでに比喩的な思考をしているのです。「進路」も「迷う」も比喩です。

もう少し言えば、メタファー(隠喩)です。「進路に迷う」とき、君は人生の道を歩む旅人となっているのです。旅人は、「立ち止まる」こともあれば、「倒れる」こともあります。一心に未来に向かって「突き進む」こともあれば、ときに自分の人生を「振り返る」こともあるでしょう。君はすでにメタファー思考の達人です。比喩の力とは何かについて熱く語る90分に参加しませんか。ただ、この講義に参加すると、もう後戻りはできませんよ。

近代芸術の本質について



高梨友宏 准教授

講義概要

美学は、人間の感性(感覚、感情、情緒など、理性や知性から一応画された働き)に関する反省をテーマとする西洋の哲学的学科の一つで、18世紀にその基盤が確立されました。感性に関わる価値的に顕著な現象としての自然や芸術の美に即して、その把握の仕組みや創出の次第を解明することが、感性の学としての美学の課題であると言えます。今回は、美学の基盤を実質的に据えた18世紀ドイツの哲学者、I.カントによる、対象の美の判定の規定における普遍性と個別性の問題を取り上げて検討し、これを手引きとして近代芸術の本質についてお話したいと思います。その際、実例としてF.シューベルトの歌曲の実演を披露する予定です。

高齢者像の社会的変遷



進藤雄三 教授

講義概要

超高齢社会の到来を控えて、高齢者に対する社会保障論議が喧しくなっています。かつて一定の年齢以上の人を表すものとして、「老人」という言葉がありました。「老人」から「高齢者」へ。この言葉の変化の背後には、こうした言葉で指示される人々への社会的イメージの変遷、そしてそれに伴う社会的処遇の変遷が示されています。人は誰でも齢を重ねます。しかし、その齢を重ねた一定の集団にどのような社会的意味が与えられ、どのような処遇がなされるのかは、時代と社会によって異なります。私たち一人一人が「加齢」というものをどうとらえ、どう向き合うのかが問われている今、高齢者像の歴史の変容を共にたどりながら、その方向性を一緒に考えてみたいと思います。

2限 午後3時00分～午後4時30分

ロンドンの劇場行ったり来たり



荒木映子 教授

講義概要

昨年10月から約半年間ロンドンに出張滞在していました。その時にいろいろな劇場に行き、いろいろな演劇を楽しんできましたので、まずその話をしたいと思います。ロンドンのウエスト・エンドと呼ばれる地域には、40もの劇場が集中していて、連日にぎわっています。たとえばそこで見た『39階段』(スコットランドの作家ジョン・バカンJohn Galsworthyの小説をもとにしたもので、ヒッチコックの映画『39夜』にもなっています)は、最高に面白かったもののひとつです。バカンは、第一次世界大戦中の1917年に設立された「情報庁」の初代長官をつとめた政治家でもあり、第一次世界大戦が始まるというところでこのスパイ小説は終わっています。小説も演劇も映画も劇場も、文学部で勉強する対象になります。文学や芸術(あるいはサブカルチャー)を広く文化や歴史や理論と交差させることでスリリングな知的冒険が可能になることを、対象の周辺を「行ったり来たり」しながら考えてみましょう。

第1回十字軍とビザンツ帝国



井上浩一 教授

講義概要

大学の授業のなかでも、演習(ゼミ)や実習に比べて、講義と呼ばれる授業は退屈だといわれています。とくに私の講義では、教室のあちこちで居眠りする姿が見られます。昨年は「平和憲法」60年ということで、私が専門としているビザンツ帝国の戦争について講義しましたが、やはり学生諸君のなかには「先生には申し訳ないけど退屈が……」という人がかなりいました。今日の市大授業では、昨年度の「西洋史通論」の講義「ビザンツ帝国の戦争」の第11回を紹介いたします。戦争に対する考え方が、ビザンツ帝国と西ヨーロッパの十字軍とはどう違ったのかという話です。皆さん、講義の退屈さを実感してください。この授業に耐えられたら、大学での勉強は大丈夫、私が保証します。

対話の世界と教育



湯浅恭正 教授

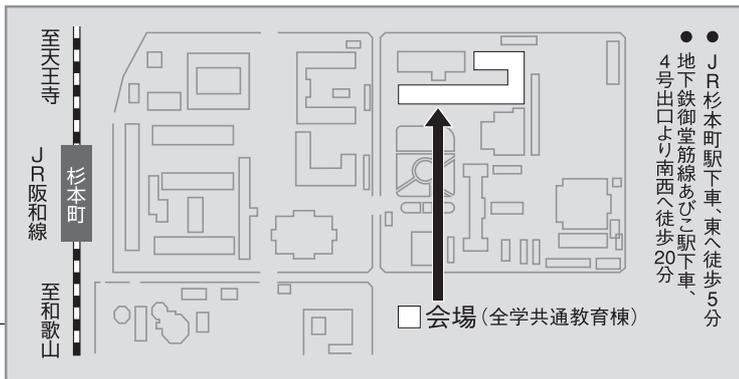
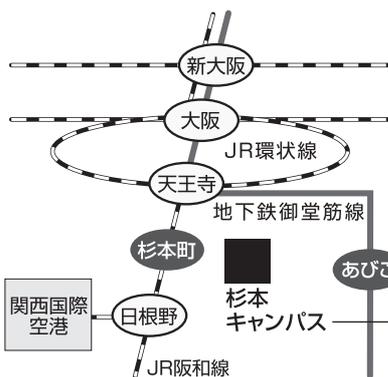
講義概要

テーマは「困っている他者の声を聴く力」です。私たちは、つい自分を基準にして、他人の「困った」行動に出会うと、迷惑な人だと決めつけてしまいがちです。発達障害のある人(子ども)たちは、「あたりまえ」のように暮らしている者からみれば、「困った」存在だと決めつけられがちです。「困った」人(子ども)こそ「困っている」のです。発達障害の世界を中心に、他者の声を聴くこと、対話の世界と教育の意味を考えます。

放課後 午後4時30分～午後5時00分

文学部学生とのフリートーク

※当日は、全学共通教育棟市大授業受付(地図を参照)に授業開始時刻の15分前までに来てください。



- JR 杉本町駅下車、東へ徒歩5分
- 地下鉄御堂筋線あびこ駅下車、4号出口より南西へ徒歩20分



文学部市大授業と同じ日時・同会場で、数学や理科の好きな高校生のための理学部市大授業開催。
URL <http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/koudai/koudai.html>